

開催結果概要（案）

会議名	令和8年度第1回守山市スポーツ推進計画策定協議会
開催日時	令和8年5月12日(火) 午後5時00分から午後7時00分まで
開催場所	守山市役所2階 防災会議室
出席者氏名	<p>【委員】 大友智委員（新会長）、辻本長一委員（新副会長）、鈴川一宏委員（リモート）、大平雅子委員、森貴尉委員、西澤功雄委員、杉江尋幸委員、福井康裕委員、下宇宿勲委員、西村秀樹委員、真鍋敏美委員、宮嶋國彦委員、高田幸子委員、村田和哉委員</p> <p>【市事務局】 森中高史市長、総合政策部 稲田部長、竹川次長 スポーツ振興課 今江課長、筈本係長、西田主任</p>
欠席委員氏名	0人
傍聴人数	0人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長挨拶 3 委員紹介 4 会長、副会長選任 5 諮問 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民意識調査分析結果報告について (2) 第4期守山市スポーツ推進計画の方向性について (3) 第4期守山市スポーツ推進計画策定スケジュールについて 7 閉会

発言者	主な意見・内容
	<p>4 会長、副会長選任</p> <p>●新任期（令和8年4月1日から令和10年3月31日まで）となったことによる役員選任</p> <p>⇒新規委員がいる中、委員互選は難しいため、事務局案の提案を協議会委員から受ける。事務局から前期会長（立命館大学大友教授）および副会長（守山市教育委員会辻本教育長）を選任する案を提案し、当人および各委員から異議なく承認を受ける。</p>
西澤委員	<p>5 諮問</p> <p>●現行第3期計画最終年を迎え、第4期計画策定を市長から協議会あてに諮問</p> <p>⇒スポーツ基本法第10条の規定に基づき、諮問。国スポ・障スポレガシーの承継。</p>
事務局	<p>6 議事(1) 市民意識調査分析結果報告について</p> <p>調査対象者である18歳以上90歳未満の人口は、市民全体においては、どの程度の割合か？</p>
大平委員	<p>市民総人口約8万6千人に対して、調査対象は6万8,000人で、約80%程度となる。</p>
事務局	<p>年代別の週1回以上のスポーツ実施結果をみると、30歳代が非常に少ない。別の質問で、「運動・スポーツをあまり行っていない理由」を問う質問があり、この結果と組み合わせて、30歳代とその他年代とを比較することで、30歳代特有の理由が分かり、問題解決へのアプローチができると思う。その他、スポーツが「好き」、「嫌い」の観点など、他の質問結果とクロスすることで、運動ができていない理由をさらに深堀することができる。調査結果を活かすべきと感じる。</p>
事務局	<p>本資料に深堀りした分析を掲載していないが、次の議事「(2) 第4期守山市スポーツ推進計画の方向性について」で用いる資料にて、30歳代の実施率が低い理由等を準備しているため、次の議事で説明する。また、回答結果のクロス集計によって、さらに深堀りした分析ができるということなので、引き続き取り組む。</p>
森委員	<p>この一年で最も実施が多かった「ウォーキング」について、スポーツ実施理由とクロス集計し、ウォーキングに対する今後の施策展開に繋げていただきたい。</p>
鈴川委員	<p>意識調査の中に学区の項目があったが、学区別で実施されたスポーツを分析するこ</p>

	とも特性をつかむ方法だと感じる。また、地域と年齢層をクロス集計することでさらに深掘りすることができるので、集計していただきたい。
杉江委員	実施スポーツのトップが「ウォーキング」ということから、どこで運動・スポーツを実施したかという質問に対する回答では、道路が一番多かった。スポーツをやる視点ではなく、どのような道路を歩いているのかという環境の視点でみた場合、例えば危険なところを歩いていないか、ウォーキングコースの設定が必要かどうかなど、実施以外の視点が必要と感じた。実際のところ、夕方ごろに田んぼ道を歩いている高齢者をよく見かける。習慣につながっている方が多いと見受ける。
辻本委員	スポーツが嫌いな理由は一番重要。やりたくても集団・コミュニティに入れないという人もいますので、誰でもできるようなオープンな機会を創出できればいいと考える。そして、その後のフォローアップも必要。
宮嶋委員	自治会によっては、散歩やウォーキングを夕方に実施してくださいと呼びかけているところがある。子どもの下校時の見守り活動および健康増進を兼ねて。スポーツの観点だけでなく、地域活動としても重要かと考える。
下宇宿委員	6 議事(2) 第 4 期守山市スポーツ推進計画の方向性について スポーツを「みる」について、観戦対象はどのレベルまでを指すか。
事務局	市民意識調査の中では、観戦の定義づけを行っていない。今後の計画の中で、位置付けることができればと考える。
西村委員	無作為抽出された市民 2,000 人への意識調査に障害者も含まれていると思うが、回答率約 4 割程度の中で、障害者の実態がどれほど加味されているかがわからない。スポーツをする視点では、障害を持つがゆえに思うようにできないことは往々にしてあると感じる。意識調査結果の実施スポーツ上位 3 つについては、健常者であれば取り組みやすいかもしれないが、障害者にとってはハードルが高い実態がある。現行計画において障害者のスポーツへの参加と明記されているので、次期計画においても、もっと大胆に踏み込んでいただき、だれもがスポーツをできるような環境づくりをすすめていただきたい。
事務局	今回の市民意識調査については、ユニバーサルスポーツ実施の有無にとどまっている現状。障害のある方がどのようにスポーツと関わりを持つかという点は非常に重要な視点であることから、障害者スポーツ協会と意見を交換しながら次期計画に反映していきたいので、協力いただきたい。

真鍋委員	<p>スポーツを「する」人口については、コロナ禍の活動自粛期間を境に、とりわけ高齢者においては、筋力が低下して運動・スポーツができなくなったという方が多く、減少に影響を及ぼしていると考えます。最近、スポーツイベントを通して少しずつスポーツを「する」人が増えてきたと感じるが、自主的な活動ではなく、体験会などの一過性イベントに参加されることが多いと感じる。継続につながっていないので、結果としてスポーツを「する」人口の減少に至っていると考えます。</p>
村田委員	<p>スポーツを「する」人を増やす考え方も大事だが、スポーツが生活・日常の中に入ってくるようなきっかけ・しくみが大事と考える。スポーツイベント単体で実施するのではなく、他のイベントと複合的に実施することが重要。</p>
村田委員	<p>国スポ・障スポを通してたくさんのボランティア協力を得たが、次に承継していくためにも予算をかけてボランティアで協力いただいた方をスポーツ推進委員などのスポーツに関わる仕事に取り込んでいく仕組み作りが必要。</p>
村田委員	<p>柱4「情報発信・発信の充実」については、足りていない点が多い。それぞれのスポーツ団体が良い取組を行っており、それを個々で発信しているため、発信力として乏しい。情報を集約して発信できる仕組みを作る必要がある。</p>
事務局	<p>情報発信については、スポーツ分野に限らず守山市として課題と考えているところであり、特に SNS の活用方法に大きな課題を抱えている。時代に合わせた情報発信の仕方を市全体として考えていかないといけないという認識をしているところ。行政として SNS 発信していく際のルールに気をつけないといけない点をしっかり理解した上で、SNS 活用における課題を認識し、第4期計画内で「情報発信」について整理し、表現できるよう、視点を置きながら計画の骨子案に盛り込んでいくことを検討する。</p>
森委員	<p>柱2のスポーツができる場所の確保については、第3期計画どおり施設整備できたことから高く評価されてもいいと思う。アーバンスポーツができる場所が整備されたことから、新たな層を取り込む切り口として期待できる。また、施設使用料（体育館の冷房暖房費）についても、利用者の目線になって価格設定をされたと思う。</p>
森委員	<p>本市は施設の使い勝手の良さや交通の便の良さによって、アマチュア大会の開催が多いと感じる。これらの大会を「スポーツを『みる』」と結びつけることはどうか。</p>
森委員	<p>スポーツ施設によっては、平日の稼働が少ないものもあることから、平日利用の際は使用料を減額する価格変動制などの工夫を行ってみてはどうか。</p>

福井委員	施設の価格変動制は実施しているが、あまり使われていない現状。
福井委員	プロスポーツについては、Bリーグ所属のレイクスターズは守山市民体育館からスタートしたが集客容量がリーグ規定に達していないことから開催されなくなった。その他、SVリーグの東レアローズの試合を誘致できないか協議したが、同様の理由から厳しい状況。現在、プロ野球独立リーグ（日本海リーグ）所属の滋賀ハイジャンプスが市民球場をホームに展開されており、昨年度は公式戦3試合（うち1試合は雨天中止）を実施し、合計6,000人の来場があった。その他、守山をホームにするサッカーチームもビッグレイクで試合されているので、もっと発信し、スポーツを「みる」、「ささえる」を進めていくべきと考える。
杉江委員	情報発信の効果的な方法は、年齢層によって異なると思う。若年層には電子媒体、高齢者層には紙媒体がやはり効果的。自治会では、回覧板を活用して情報共有されているところもある。それぞれにあった方法で周知していく必要がある。
杉江委員	現行計画柱1「ライフステージに応じたスポーツの推進」の評価については、まとめられているが、各ステージ（子ども、成人、高齢者、障害者）で状況が異なるはずなので、細分化して分析すべき。
杉江委員	びわこ国体開催後に各町内にスポーツクラブができ、学区毎に活動していた時期があったが、現状はゼロ。それに代わるものとして今、総合型地域スポーツクラブが地域別に立ち上げられ、20年余り経過したが、世代交代が難しく、このままの状況が続くと担い手の高齢化によっていずれ組織が無くなる。今やるべきこと、やらなければならないことは、30代40代の人たちが活躍できる場を新たに用意することと考える。既存の組織の強化も重要だが、若い世代が自分たち主体で進めることができる仕組みを作り出すことが重要。
森委員	スポーツを「みる」について、本市出身のプロスポーツ選手や全国の舞台で活躍するアマチュア選手をもっと市民に知ってもらい、地域で支えられる・応援できるような形に繋げて欲しい。
西澤委員	子どもの頃からスポーツする習慣があれば、大人になってもスポーツする習慣はあると考える。子どもがスポーツをするきっかけの一つに「憧れ」があると思う。テレビあるいは現地観戦で見たスポーツ選手みたいになりたいと思うところがスポーツするきっかけとなり、その憧れる選手が本市出身の選手であれば、より大きなきっかけになると考える。現行計画では、ターゲットになっていないが、将来的には対象世代になることから、「みる」という観点から子ども向けの対策は講じるべき。

高田委員	<p>市内のウォーキングマップについては、安全で魅力的なマップになるよう本市健康推進員が守山市すこやか生活課とともに令和6年度に刷新をしたところ。健康推進アプリ「BIWA-TEKU」と連動したマップで、アプリ内ポイントも整理されている。ツールとして整備できているが、この協議会を通してうまく情報発信できていないことが分かった。市民に浸透するように発信することが重要と改めて感じさせられた。</p>
下宇宿委員	<p>情報発信の点については、スポーツ施設によって所管課が異なることから、各施設で展開されている事業等を集約・一元化して発信することが重要と考える。</p>
村田委員	<p>守山市のスポーツに携わる・スポーツに関わる各種団体が一堂に会して相互的に補完しながら運営されるスポーツイベント（場所）ができれば、スポーツ振興に関する人材育成に繋がると考える。</p>
辻本委員	<p>子どものスポーツ実施状況については、二極化が進んでいると感じる。スポーツの楽しさを感じさせるような取り組みが必要。</p>
辻本委員	<p>文化体育振興事業団が展開する弓道クラブに、たくさんの地域子どもたちが入部したことは、これからの部活動のあり方のヒントになると思う。</p>
辻本委員	<p>ニュースポーツなど親子で気軽に参加できる、体験できるイベントを展開することは非常にいいと思う。</p> <p>6 議事(3) 第4期守山市スポーツ推進計画策定スケジュールの共有</p> <p>●今後の会議（第2回から第4回）開催日案を事務局から提案。</p> <p>⇒事務局案について、委員各位から了承を得る</p> <p>第2回：令和8年7月31日（金）午後3時から午後5時</p> <p>第3回：令和8年11月9日（月）午後3時から午後5時</p> <p>第4回：令和9年2月19日（金）午後3時から午後5時</p> <p>以上審議終了</p>